

<学部消息>

## 教授会メモ

### 5月理学部会合日誌

5月21日(水)定例教授会

理学部4号館 1320

7日(水)	会計委員会	1.30 ~ 3.00
12日(月)	理系委員会	10.00 ~ 12.00
14日(水)	主任会議	10.30 ~ 12.00
"	人事委員会	1.30 ~ 2.30
"	将来計画委員会	3.00 ~ 5.00
19日(月)	理職定例交渉	12.30 ~ 1.20
"	教務委員会	1.30 ~ 3.30
21日(水)	教授会	1.00 ~ 4.30
22日(木)	百年史編集委員会	3.30 ~ 4.45

1. 前会議事録の承認
2. 人事異動等報告
3. 教職免許教科に関する専門科目の単位の認定(竹内)
4. 人事委員会報告(末元)
5. 教務委員会報告(花井)  
総長から進学振り分け制度改善について諮問があり、これについて委員会としての意見のまとめが述べられ、学生の進学についての希望がみとされるための方策について討論があった。
6. 会計委員会報告(佐佐木)
7. 将来計画委員会報告(黒田)

## 人事異動

[ 助 手 ]

教室	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
植物		広瀬 忠樹	50. 5. 1	助手に採用	
人類		丹野 正	50. 5. 1	助手に採用	
人類		石川 和子	50. 5. 1	助手に採用	
地質		藤井 敏嗣	50. 5. 1	助手に採用	
鉱物		大政 正明	50. 5. 1	助手に採用	
植物	助手	福田 泰二	50. 5. 1	千葉大学助教授昇任	千葉大学教養部
植物	助手	辻 堯	50. 5. 1	富山大学助手転任	富山大学薬学部
物理	助手	石岡 俊也	50. 6. 1	東北大学助教授昇任	東北大学 金属材料研究所
化学	助手	福山 力	50. 5. 30	休職	在外研究のため

〔講師以上〕

教室	官職	氏名	発令年月日	異動内容
植 物	助教授	佐伯敏郎	50. 4. 1	教育職(一) 1等級(東京大学教授理学部)に昇任させる
地 質	講 師	島崎英彦	50. 4. 1	教育職(一) 2等級(東京大学助教授理学部)に昇任させる
地 質	助 手	中村保夫	50. 4. 1	教育職(一) 2等級(東京大学助教授理学部)に昇任させる
化 学	助 手	池本勲	50. 4. 1	教育職(一) 3等級(東京大学講師理学部)に昇任させる
生 化	助 手	猪飼篤	50. 4. 1	教育職(一) 3等級(東京大学講師理学部)に昇任させる
物 理	助 手	蟻川達男	50. 5. 1	教育職(一) 3等級(東京大学講師理学部)に昇任させる
地 質	助 手	吉田鎮男	50. 3. 1	教育職(一) 3等級(東京大学講師理学部)に昇任させる

### 外国人客員研究員

教室	国籍	氏名	現職	研究期間
地球物理	アメリカ合衆国	Edwin. E. Larson	コロラド大学教授	50. 12 ~ 51. 6

### 5月海外渡航者

所属	官職	氏名	渡航先国	渡航期間	渡航目的
人類	教授	渡辺直経	インドネシア	5. 5~5. 17	ジャワ化石人類遺跡調査に関する研究連絡
物理	教授	小柴昌俊	ドイツ連邦共和国	5. 14~5. 29	西ドイツ国立電子シンクロトロン研究所との共同研究
化学	教授	斉藤信房	ベルギー	5. 23~6. 4	第8回アットアトム国際シンポジウム及び IAEA 小パネル集会出席
化学	助教授	岩村秀	フランス ドイツ連邦共和国	5. 19~5. 29	CIMP 国際会議出席及び有機化学に関する研究連絡
数学	助教授	小松彦三郎	スウェーデン ハンガリー	5. 24~6. 30	函数解析学の研究
化学	助手	福山力	アメリカ合衆国	5. 30 ~ 51. 5. 31	衝突化学の研究

### 理学博士学位授与者

昭和50年5月12日付授与者

専門課程	氏名	論文題目
生物化学	岩下新太郎	Salmonella 変換フェージの感染機構 —宿主識別における tail spike の役割—
学位規則第3 条2項該当	近藤俊彦	マイクロ波分光による反応中間体の同定法
同	清水肇	オージェ電子分光法による銅ニッケル合金組成に関する研究

## 学部長と理職の交渉

2月17日(月)

出席者：学部長ほか5名。理職委員長ほか約10名。

議事：

(1) 物理学教室での技官配置と予算配分との関連措置と技官の待遇。

物理学教室では技官のいる研究室といない所の間に予算配分上差をつけて来たが、50年度からこれを60万程度に拡大する案が検討されているというので、理職からこの案は技官を研究グループの中で研究を支える技術者として認めていない考え方の表われであり、技官の間に不安を引起している事実を指摘した。学部長から「技官のいる研究室が既得権として定員を持ち続けるのは望ましくない。ある程度流動性を促進するという観点からこのような案が考えられたのであろう。技官のいない研究室が予算上優遇されて研究活動を活発にして不利をなくすというのも一つの方法である。このような配分方法を決定するにあたって技官の希望がとり入れられていないとのことであるが、現実に配置換等の措置が必要となった場合には、当事者と十分意志を通じあいつ、措置をするのが常識である。技官の処遇一般については大学は業務が多様なので流動的運用がなかなか難しい。一般社会との関連について再考することも必要だ。技官、事務職員が将来の生活設計を自分の責任で立てることは当然であるが、大学側としても個々の教官をはじめとして協力を惜しまないことが望ましい。そのためには研究室内でよい人間関係を作る必要がある。」との発言があった。

(2) 総合大学院構想について簡単な質疑応答があった。

3月17日(月) 12時38分～13時40分

出席者：学部長ほか5名，理職副委員長ほか8名。

議事：

物理学教室における技官の地位・待遇に関する問題について議論が行われた。理職からある技官が本人の希望に反して事務職に配置換になるという事態が生じているが、これは前回交渉での「よい人間関係」云々という次元の問題ではなく、今後も同様の事が起り得るとの指摘があった。学部長から、指摘された件はかねてから十分な話し合いがあったと聞いており、「よい人間関係」は現在でも保たれている

と信ずるとの返事があった。事実認識をめぐって議論は続き、途中で副委員長は退席した。理職側から特に若い技官が将来の展望が持てるような配慮をして欲しいとの要望があり、学部長から講習会への参加とか資格をとる場合に出来るだけ便宜を計りたい。内容と事情によっては出張旅費も考慮されるだろう。そのような希望があるときは教室に申出るようにとの返事があった。

## 学部長と理系自治会の交渉

理学系院生自治会は1975年5月13日付で理学部長あて「理系交渉」を申し入れた。申し入れの主な項目は下記のごとくである。

1. 院生の生活保障
2. 研究旅費について
3. 安全管理，研究災害補償について
4. O・D問題について
5. 職員定員問題について
6. コピー，カードせん孔機，鳩あみ等について
7. 院生自治活動発展のために

会談は5月17日2時より5時15分まで理学会会議室において行なわれた。理学部側の出席者は植村学部長，末本，野田両協議員，尾本，有馬両学生委員であり，院生側は小宮委員長ほか数名であった。会談の内容は以下の通りである。

I 院生の生活保障 院生から「アルバイト，仕送りなしで生活できる額を理念として，出来る丈，増額すること，及び修士課程の貸与率を大巾に引き上げること」を育英会に要請してほしい旨の希望があった。学部長も事情を了承した。また奨学金と授業料免除の選考について院生側の希望が出され質疑応答が行なわれた。

II 研究旅費について 調査旅費を費目化せよとの要求に対して旅費の形で費目化の要求は行なわないが，実習費についての要求は出しており，理学部長会議でも重点項目の一つとしていること，また当理学部としてはパスチャーター費などいろいろな形で，地質その他の実習旅行を実質的に援助していること，また学会旅費の要求に対しては，教官の旅費すら非常に不十分であり，それを増加することにも大きな抵抗がある今日，学生，院生旅費を要求しても実現はきわめて困難であることの説明が部長よりあった。

III 安全管理 研究災害補償制度について。文部

省で考慮中の左記制度について, 1.院生負担を少く, 2.野外調査中事故も, 3.死亡補償を高額に, 4.東大の「学生患者制」を後退させないように等の希望, が自治会側から出された。部長は同制度をよく調査検討を行うとのべた。また安全管理のための検査修理を行うよう自治会側より要求があり, 部長は当然のことであり, 現在も努力中であると答えた。

Ⅳ O.D問題について O.Dの実態を調査し, この問題解決への対策を公表して欲しい, 例えば, 国公立大学の研究職やP.D.F.の増加を要望するよう, 要求があった。それに対し学部長より, O.D問題については心配をしているし, 教官として, 先輩として, 種々, 援助, 助言をしたい。そのため, きめの細い実態把握の必要性は認める。しかし基本的には院生自身の問題であるので, 今の所, 学部として統一的対策をとることは考えていない。又教官側も大学の教育研究施設及び要員の拡充をはかっているが, これは本来それが必要だからであってO.D問題があるからではない。P.D.F.奨学金のわりあて増については, 現在部長会議としても努力しているが, 一先輩としていえば, 奨学金の類いは当人にとってみると, 単に解決を長びかせることにより, 却って本人をスポイルする可能性があることなどの点から, P.D.F.をもらうことがすべての人にとって, 良いこととも考えない等という考えが部長によって示された。

これらの学部長見解に対し, 院生側は「O.D問題は優秀な人材が埋もれる点で, 又院生の研究意欲を低下させる点で日本の学問発展にかかわる問題である。基礎学問, および, 大学教官の充実を計って欲しい」と主張した。

Ⅴ 職員定員問題について 職員不足にならないようにとの希望に対し, 部長は努力している旨答えた。

Ⅵ 学内諸問題について コピーを一律に1人500枚校費負担せよ等の要求に対し, 各学科各研究室の自主性によるべきものであるという基本的考えが部長よりのべられた。

鳩の侵入の問題については各号館責任者に伝える。

1号館の鍵の問題は必要があれば, 鍵問題担当者と自治会が話し合うことになった。

## 理学部紀要の近刊

理学部紀要Section IA MATHEMATICSのVol. 21 No.2 (論文8篇), No.3 (論文10篇) Vol.22 No.1 (論文6篇), 同じくSection III BOTANY Vol.21 Nos.10-11 (論文2篇), 同じくSection II GEOLOGY, MINERALOGY, GEOGRAPHY, GEOPHYSICS Vol.19, No.1 (論文3篇)が発行された。

## 名誉教授の称号授与

5月20日の評議会で, この3月退官された36名の元教授に名誉教授の称号授与が議決されたが, 理学部では, 門司正三, 今井 功, 高橋秀俊, 小平邦彦の4教授が該当されている。

編集後記: 今月号は, 印刷の体裁がかわってることにお気づきでしょうか。予算節約ということで関係筋からの勧奨がありましたので, 実験的にいわゆるP.T.O.方式で印刷してみました。一般の広報, 弘報誌とはことなった内容をもっている「理学部広報」の性格からして, この新方式でつづけるか, それとも元の活版印刷方式にするべきか, 皆様のコメントをおよせ頂きたいと思います。尚, 広報は次号7月号をもって夏休みに入ります。

編集:

小堀 巖(地理) 理2号館 205号室 内線6449  
木下清一郎(動物) 理2号館 22号室 内線3361  
猪木慶治(物理) 理1号館 461号室 内線2668